



オ リ ー フ 通 信

主よ、あなたの道をお教えてください。

詩編86篇11節

神愛保育園

「3月をおかえて」

まだまだ寒い日もあり温度差の激しい毎日ですが、川沿いの、早咲きの桜を目にすると、もうすぐそこまで春が来ていることを感じます。

さて3月は、子どもたち一人一人がそれぞれ新たな成長や出発を目の前にする時期です。この時期、クラスの日誌に目を通して見ると、毎日の生活の積み重ねから一年をとおして成長した子どもたちの様々な姿や出来事、子ども同士のかかわりの中で起こったことがたくさん書かれています。毎月、乳児・幼児から一つずつ「ともに育つ」というコーナーでお伝えしていますが、紹介しきれないほどのそれぞれの個性と能力の素晴らしいエピソードがあります。乳児の子どもたちは、月齢や年齢に応じたお友達とのかかわりを通して、社会性が広がり、興味や関心、様々な感情が育ってきたこと、幼児では、集団を通して、一緒に取り組むことや、考えていくこと、自分の思いを伝えられること、そして、自分のことだけではなくお友達のことを気に掛ける姿へと成長している姿があります。

そして、この成長した姿で今年は14名の年長さんが神愛保育園を巣立っていきます。1月26日からクラス移動を行い、年長さんだけの14名で毎日を生活しています。クラスを訪ねると、本当に楽しく充実した時間を子どもたちが過ごしていることがわかります。目をキラキラと輝かせながら、今夢中になっている目の前の遊びに没頭し、その上、毎日ともに長い時間を過ごした仲間だからこそ生まれる兄弟姉妹のようにお互いをかけがえのない存在であることを感じ、自然と助け合う姿を多くの場面で見ることができます。保育園の「あそび」を中心とした活動において、子どもたちは一緒に楽しみ、喜び、時には涙を流したり、けんかをしたり、また、乳児クラスの時には、ひとつひとつのことができていく喜びもありました。その反面、まだまだ言葉がつかないために、お友だちを引っ掻いたり、たたいたり、その時には保護者の方にご心配をかけてしまうこともありました。ほんとに多くの時間を仲間として過ごしてきました。子どもたち自身がそれぞれ「大事ですよ、大切ですよ」と愛してくれる良き仲間の存在を信じ、一緒に毎日を過ごしてきたことを確信します。そして今後生きていく上で大切な心の土台が育っていることを感じさせられます。子どもたちが園で過ごしてきた時間を振り返り、年長クラスだけ過ごしている今この時の姿を見ると、子どもを成長させるのは、大人のかかわり以上に「子どもたち同士」「子どもの集団」がとても大切であることを再確認させられます。

それぞれのクラスは、これから進級に向けて準備も始まります。乳児クラスの子どもたちにとっては、新しいクラスへの移動など少し不安な姿が出てくるかもしれません。それは、一時的な環境の変化ですが、その不安に寄り添い、子どもたちの気持ちに配慮しながら、残り僅かな日々を過ごしていきたいと思えます。



保護者の皆様、一年間、様々な面でご協力、ご支援をいただきありがとうございました。

神愛保育園園長

鵜澤由記子



食事だより

早いもので、瞬く間に1年が過ぎました。3月は締めくくりの月ですね。4月の頃と比べて、子どもたちは体だけではなく心も大きく成長したのではないのでしょうか？1年を振り返ると懐かしく思うことばかりです。

♪ ひな祭りの由来 ♪

3月3日の「雛祭り」は、「桃の節句」とも言われ、身についた病魔やけがれなどを流そうと草やわらで作った人形で体をなで災厄を引き取ってくれた人形を川や海に流してお祓いすることから始まったと言われています。

～～～ひな祭りの代表的な料理～～～

- ちらしずしは、具にれんこん（見通しが聞く）などの縁起の良い食材を使用する事が多く、お祭りにふさわしく華やかにたまごで飾ります。
- 菜の花は春を一番に知らせてくれる花で、食材として食べる時はまだ花が開く前のつぼみの状態でいただくので、どこよりも春を先取りできます。
- 金目鯛の煮付けは、お祝いの意味を込めて、おめでたい意味を持つという魚を使用します。

★年長のリクエストメニューを紹介します★

2月、3月は年長さんのリクエストメニューが入っています!!

【なっとうごはん】
【ジャージャーめん】
【エビフライ】
【フルーツポンチ】
【シーフードカレー】
【バナナケーキ】
【きつねうどん】
【チキンライス】
【ミートソース】

＜旬の野菜を食べましょう＞

寒さに耐え、冬の間にエネルギーをため込んだ春野菜は冬眠状態からの再生を促す「気つけ薬」です。体の代謝を盛んにする旬の野菜をご家庭でも積極的に取り入れてみてください。アスパラ、たけのこ、三つ葉、グリーンピースなどがおすすめです。





2月はこの時期らしい雪の日もあったり、昼間は春の温もりを感じる日があたり、寒暖差の多い季節となりました。子ども達は雪を楽しんだり、暖かい日にはジャンパーを脱いで公園遊びをするなど、活発に遊んでいました。また卒園式を控えて、式で歌う歌の練習をする声が可愛い声が響く保育室です。園では下痢や嘔吐など、お腹の症状でお休みするお子さんがいました。大きな感染の拡がりはなく、また地域で流行しているインフルエンザの流行も見られませんでした。

3月3日は耳の日です。

3月3日というと、一般的には「ひな祭り」ですが、「耳の日（33＝みみ）」の日でもあります。耳は単に音を聞くだけでなく、様々な働きがあります。よく知られているのは気圧の調節機能。飛行機の離着陸などで耳が痛くなることがありますが、高くなった外気圧で鼓膜が内側に引っ張られることで起こります。お子さんは症状を訴えることが難しいのですが授乳をしたり飲み物を飲むことで和らぎます。また内耳には平衡感覚をつかさどる三半規管があり、回転を感知しています。前転したりしても位置関係が分かるのは三半規管のおかげです。耳を大切にしましょう。

プライベートゾーンの話し

ひまわり年長組で、2月27日か「プライベートゾーン」のお話をしました。『おしえてくもくん』という絵本を読み、体の中には大切なところがあり、自分もお友達も大切な部分を大事にしようということをお話しました。子どもたちは少し照れくさそうにしながらも、真剣にきいてくれました。保育園児への性教育の導入としては、楽しい雰囲気で行うことができました。



ひだまり ～地域の親子と園児の交流～



昼夜の寒暖の差はありますが、日中はポカポカな陽気の日もあり、少しずつ春を感じますね。2月に降った雪でひだまりでも雪遊びを楽しみました！！

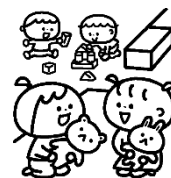
今年度ひだまりでは数年ぶりに「夏まつり」や「神愛まつり」といった保育園での行事にたくさん参加することが出来ました。保育園行事以外でも「園児とあそぼう」や「体験保育」のプログラムを通して園児と交流を持ち、利用者さんから保育園の様子や見通しが持てた等嬉しい声を聞くことが出来ました。昨年度よりもたくさんの交流がもてたこと嬉しく感じます！



来年度もたくさんの方と繋がりが持てる『ひだまり』でありたいと思います。よろしくお願い致します。



ともにそだつ



私たちは、保護者の皆さんと共に子育てをしています。
園の中での子どもの様子を伝え、子どもの育ちを共に考え、
喜びを共有したいと願いながら、この保育日誌紹介のコーナーを
設けています。ともに子どもから学んでいきましょう。

2024年 2月22日(木) 天気 くもり つくし組(0歳児)

「 いっしょだとたのしいね 」

A は重ねコップがお気に入りのようで、いつも手に2つ持っている。A がその2つを叩き合わせ音を鳴らして遊んでいると、B がやってきた。B はAの前に座ると、持ってきた重ねコップ2つを叩き合わせた。2人で顔を見合わせ笑いながら楽しそうに演奏しているようだった。そこへ、楽しいことが大好きなCは2人のもとへ向かっていった。Cは箱の玩具を太鼓のように叩いた。友達と一緒に楽しさを共有できた時の子どもたちの喜びを傍で感じることができ嬉しく思った。

子どもたちも自分の思いで友達に関わりについたり、寄り添ったりする姿が増えていると感じる。

0歳児クラスの遊びの場面です。あと1か月もすると、1歳児クラスたんぽぽ組に進級する子どもたち。入園したての頃は、まだまだ周りの保育者と一対一でかわり、保育者が提供する遊具等で毎日過ごしていました。親と子というかわりのある社会から、保育者と子どもという社会に広がってきました。そして、今では、様々な保育者やつくし組のお友達に自分の方から関わっていかうとする姿が見られるようになっていきます。0歳児の子どもたちにとって、ハイハイすることや歩行が確立していくことは、自分が行きたいと思うところに移動することができ、手に取りたいと思うものに近づいていくことができるとても大きな成長です。そして、子どもにとっても大きな喜びのようです。お友達に関心を持ち、近づいていき一緒に楽しいことをやりたいという気持ちが、これからの保育園生活を一緒にすごしていくお友達とのつながりやきずなの土台になっていくのでしょう。1歳児たんぽぽ組までもうあと少しです。きっとこの3人の関わりは、もっと深まっていくことになると思います。今度は、お互い様々な気持ちが生まれて、遊びの中に自分の気持ちや感情を表現していくことが増えていきます。成長していくと、時には嫌な気持ちや、否定的な気持ちが出てくるかもしれません。でも、「いっしょにいと楽しいね」という気持ち、感覚は、心の土台として残っていきます。たんぽぽ組での成長がますます楽しみになってきましたね。

2024年 2月 21日(水) 天気 晴れ ひまわり組(5歳児)

～ みんなと一緒に 私たちは大きく大きくなれたよ ～
(卒園式で歌う歌より)

造形の片づけ中、机を拭いていた A のところへ B も片付けようと近付いていった。A は「自分の班が使った机だから自分でやりたい」と B に伝えた。しかし、自分も片付けがしたい気持ちがあったのか、B が静止の声掛けを聞かずに机に手をつくなど、A の作業を妨げてしまった。A が強く抵抗を見せたところで B も手を引くが、A が強い口調で B を責めてしまった。B は落ち込み、泣き始めた。それを見た C は A に話しかける。D も B に様子が聞き、それを E も一緒に聞き心配そうに見つめる。A の気持ちは D によって聞き出せたが、B は傷ついた理由を話せず、話しあいとは平行線となってしまった。保育者が B に話を聞く間も、周りの子どもたちは A の思いに共感しながら、仲直りしようと促してくれる。保育者が B から離れた時には、E が B に「仲直りしなよ」と促す。結局、話がまとまらず保育者が二人と話すこととなったが、二人とも周りの友だちが十分に気持ちに寄り添ってくれたからか、仲直りするまではすぐだった。「仲直りなんてしない」という B の言葉もあったが、本心ではないことを友だちも感じていて、諦めずに説得してくれた。そのような友だちの関りもあり、二人とも素直な気持ちに向き合うことができたのではないだろうか。二人と周りの子どもたちどの立場の子どもたちも、様々な経験から社会性の育ちが感じられる場面だった。

ひまわり組年長さんたちの様子です。造形活動（製作あそび）後、自分たちで室内の片付けを始める中、AとBの思いが合わずにトラブルになったようです。

この日の日誌には5人の子どもたちが登場します。当事者のAとBだけではなく、周りにいた子どもたちも問題解決のために頭を働かせます。途中、話し合いが行き詰まりを見せたところで保育者が入りましたが、子どもたちは保育者任せにすることなく、様子を見守ったり2人に声をかけながら、最後には仲直りをして収まりました。トラブルの始まりはAとBの思いの違いからでしたが、それを“2人の問題”として放っておくのではなく、“クラスで起こったこと＝自分たちの問題”として捉え関わってくれる姿に、仲間を思い合う関係や、自発的に考え行動する力がしっかりと育っていると感じました。もうすぐ小学生になる子どもたち。新しく出会う友だちや大人とも、お互いを認め助け合える関係を築いていって欲しいと思います。



